

6. こうすればOHPがもっとうまく使える

～実践のノウハウ～

ここでは、OHPの使用の実践例から、授業や研究発表会でのその使用のコツをまとめてみることにします。

(1) 話のスピード

一般に、授業で、考え考えしながら話すよりも、予め話の順序や細かい説明内容まで構想を練ったときの方が、話のスピードが速くなります。提示するトラペンを事前に作成するという事は、結局、話の内容をかなり精選し説明順序の構想を練っているわけで、やはり話のスピードが速くなる傾向があります。実際、黒板のような板書の時間が殆どなくなるので、どんどん話を進めないと、何か場が持たなくなる感じさえし、“間”が少なくなります。したがって受講者のノートをとる様子や反応をよく見ながら、またよく理解できたかどうかを確認しながら、スピードが速すぎないようにコントロールする必要があります。

(2) 指示棒の速さ

トラペンは、スクリーン上に縦・横が約8～10倍に拡大・投映されます。したがって、OHPステージ上の指示棒や指の動きは、スクリーン上でやはり8～10倍の速度になり、説明者自身は普通で動かしているつもりでも、それを鑑賞する側からは、速すぎて目まぐるしく感じる場合があります。“指示”は、直接スクリーン上で行うのもよいでしょう。

(3) 中途半端なトラペン提示

トラペンを一旦スクリーン上に投映したら、基本的には、そこに記載された事柄はすべて説明することが望まれます。たまたま説明を要しない部分が含まれるときは、その旨一応断る方が聴き手に対して親切といえます。たとえば、「この部分は、のちに改めて説明しますが…」とか「(同じく)、先程と重複するので省略しますが…」など。OHPでは、前のトラペンを投映したまま次のトラペンを投映することが困難なので、前後の関係を充分説明し、また全員ノートに書き写したかどうかを確認して進める必要があります。もし聴き手が、そのような配慮の少ない説明者だと感じてしまうと、ノート写しの最中にいつトラペンを引っ込めてしまうかわからないので、ますますストレスがたまってしまいます。

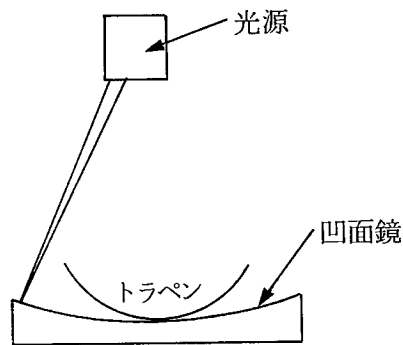


図 6.1 携帯用OHP

(4) OHPを2台つかう

OHPとスクリーンを2セット用意すれば、トラペンを交互に除去・提示できるので(3)でのべた難点がかなり解消され、トラペンのつづき具合がよりよく理解されます。尚、提示するトラペンを縮小・複写し資料として配布するなどすれば、聞き手は説明により集中することができます。

(5) 油性ペンと水性ペン

普通は、油性のサインペンを用いてトラペンを制作します。水性では、水で簡単に消えるので、もし、改めて利用する類のトラペンで、説明の都合上何らかの追加記入を行うときは、水性ペンで書き加えておき、あとで水でふき取ればよいわけです。

(6) スクリーン上の頭の陰影

OHPは先の図2.3のように、普通の机(又はやゝ低い机)の上のせて使用します。そのとき、OHP上部の鏡の位置がそれほど高くないため、話者の頭部が、スクリーン上へのその光をさえぎってしまうことがあります。(目よりも上の)額あたりでさえぎることが多く、話者自身気づかないことが少なくありません。

(7) トラペンの書式

トラペンは書き込み字数に限度があるためか、重要な用語をキーワード的に列記する使用法が少なくありません。その場合は、用語と用語の関連や相対的重要性を明示することが望まれます。その意味から、段落のつけ方とか改行の仕方、色表示、アンダーラインの付与に充分配慮する必要があります。

(8) トラペンのオーバーラップについて

重畳するいくつかのトラペンが互いにセロテープで半固定してあるとき、それを全部広げると、ふつうOHPステージをはるかにはみ出す大きさになります。実際にOHP演示するとき、一度はそのような方法で提示することが想定されますから、もし周辺のトラペンの面積が相対的にかなり大きいと、重さのバランスが崩れて全体がOHPステージから落ちてしまうことがあります。

その点を考えると、周辺のトラペンはなるべく小さくすることが望まれます。

(9) トラペンの修正

ちょっとした書き損じの場合は、専用の修正液で文字を抹消することができます。修正液をちり紙などに若干しみ込ませその文字上をこすればよいのですが、うまく拭きとらないと、必要な文字まで薄くなってしまったり抹消文字の色が周辺に広がって汚くなってしまいます。また抹消部分への書きこみは、そこが充分乾いたのちに行わないとにじんでしまいます。

(10) トラペンの保管

コピーマシンでトラペンを作成したとき、それが(熱転写式でなく)圧着式であるとカーボンがトラペンからはがれることがあります。これを極力防ぐには、各トラペンの間にやわらかい紙を挿入したり、カーボンの圧着面がすべて同じ方向になるように揃えて保管することが必要です。いずれにしても、圧着によるトラペンは、長期の保存には適しません。

(11) OHPのファン

OHPは600w以上もの光源を使うため、常にファンを回しています。したがって、そのすぐ近くに軽いトラペンを置くと飛んでしまいます。また特に、暑い夏に使用すると、ファンの向きによっては、なま暖かい風が最前列の受講者にあたり、受講者にとっては必ずしも気分のよいものではありません。その点からも、OHPの設置位置を考えるべきでしょう。

(12) OHPの電源スイッチの位置

特に研究発表会でOHPに関してモタモタするのは、電源スイッチの位置・操作がわからないことです。OHPの焦点合せはだいたい会場責任者が行いますが、スイッチの

操作は説明者自身で行いますから、操作方法などを確認しておくといよいでしょう。OHPのメーカーによって、スイッチの位置・操作方法が異なります。

(13) 携帯用OHPを使うとき

携帯用OHPは図6.1のような形をしています。ところが、その凹面鏡上のトラペンは、必ずといってよいほど熱で図示のようにそってしまい、そのためにスクリーン上に文字が二重に投映されます。これを防ぐには、何か棒状のおもりを用意し、トラペンの両端を半固定しておけばよいでしょう。

(14) OHPステージ上に直接書き込む！？

ある初心者実際に起こった話ですが、OHPを黒板がわりに使おうと、油性サインペンでOHPステージ上に直接書きはじめた、ということがあります。途中で気がつき、修正液で消したら、ずいぶん時間がかかった、とのこと。